

知って楽しむ！筑波山地域ジオパーク



第11回 土浦エリア(ジオサイト)の見どころ

土浦城櫓門

土浦エリアとは

筑波山地域ジオパークには、地形や地質の見どころが集まったエリア(ジオサイト)が26か所あります。連載最終回となる今回は、土浦エリアをご紹介します。

土浦エリアは、桜川左岸の低地に広がる土浦の中心市街地です。ここは、約7000年前の縄文海進のときには入り江となっていました。その後、海が退くと桜川が運んだ土砂によって、自然堤防や砂州といった微高地が形成されました。この微高地を巧みに利用して築かれたのが土浦城です。水堀や水路に囲まれた姿は水に浮かぶ亀のようであったことから、亀城の別名があります。この土浦城を中心として江戸時代に発展した城下町が、土浦エリアです。

利根川東遷と土浦の発展

江戸時代には、それまで東京湾に注いでいた利根川の流路を変更し、現在の流路に付け替える大工事「利根川東遷」が行われました。江戸を水害から守るための工事といわれていますが、このことによって利根川を介して江戸とつながった土浦は、水

陸両方の流通の拠点として発展しました。

現在、醤油の産地という千葉県野田市や銚子市などがある有名ですが、かつては土浦市も醤油の一大産地でした。今でも、柴沼醤油がその伝統を守っています。

利根川東遷と水害

江戸との水上交通により発展した土浦ですが、利根川東遷は良いことばかりではありませんでした。利根川から流れ込んだ土砂が霞ヶ浦の出口を塞ぎ、大雨が降ると霞ヶ浦から桜川に水が逆流してくる「逆水」と呼ばれる現象がたびたび起こるようになりました。このとき、水害対策に立ち上がったのが色川三郎兵衛です。

三郎兵衛は常磐線が敷設される際、鉄道会社に働きかけて、線路を市街地の東側を通るように計画を変更させました。線路の盛り土を堤防の代わりにしたのです。さらに、現在のモール505のところを流れていた川口川に、逆水を防ぐ閘門を設置しました。三郎兵衛は閘門の完成を見ることなく亡くなりますが、昭和13年には閘門の内側にたまった水を排水するポンプも設置されました。そして、戦後

に桜川の護岸工事が強化され、現在ではほとんど水害は起きていません。土浦エリアの水害の歴史を物語る、「旧川口川閘門鉄扉及び排水ポンプ」は、令和2年に市の文化財に指定されました。



旧川口川閘門鉄扉及び排水ポンプ
(川口一丁目)

もっと知りたい！
という方へ

筑波山地域ジオパーク
ホームページ

お問い合わせ

商工観光課
(☎826-1111 内線2705)
上高津貝塚ふるさと歴史の
広場(☎826-7111)

